

皮膚科シニアレジデントプログラム

※ 皮膚科に固定するシニアレジデントは原則として受けつけておらず、短期ローテーションのみ受け入れています。

1. 診療科の特色とスタッフ紹介

1) 疾患や治療についてわかりやすい説明を心がけているので、外来見学をしていただだけでも、多くの情報を得ていただけたと思います。難治の症例には積極的な治療（たとえば乾癬に対するネオオーラル内服など）、特殊な治療（たとえば、円形脱毛症に対する局所免疫療法のように、EBM でよい治療と認められているのに施行する施設が限られているもの）も行っており、幅広く皮膚科学を学んでいただけたと思います。

2) スタッフの紹介

部長：近藤 摂子 昭和58年九州大学卒 日本皮膚科学会専門医 医学博士
京都皮膚科医会理事
日本皮膚科学会中部支部代議員
日本臨床皮膚科医会近畿支部役員
皮膚の科学編集委員

医員：笹橋真紀子 平成9年福井大学卒

医員：益野 由香 平成19年島根大学卒

3) 年間症例数・検査/手術件数

年間外来患者数24,196名

年間入院件数63名（帯状疱疹、蜂窩織炎、水疱症、皮膚潰瘍など）

2. 研修期間

1～3ヶ月。

ただし、ジュニアレジデント（初期研修医）と併せて一時期に1名のみの定員のため、ジュニアレジデントの希望者のいない月のみで受け入れ可。

3. 目標（1～3月間の研修期間における）

一般目標 GIO

皮膚科学を専門としない臨床医として、皮疹の基本的な見方、疾患と治療についての論理的、系統的な考え方、ステロイド外用剤の基本的使用法を習得する。

個別目標 SBO

- 1) 皮膚科疾患における問診のポイントを述べることができる。
- 2) 真菌検査の手技、判定ができる。
- 3) 処置の際、清潔、不潔の区別がきちんとできる。

4) 蕁麻疹とそれ以外の疾患の鑑別が的確にできる。

4. 方略 LS

1) OJT(診療)

- ・ 外来は上級医の診察の見学を行い、問診の取り方、診断へのアプローチ、治療を学ぶとともに処置の介助につき、処置の実践をする。慢性疾患における治療、生活指導も学ぶ。
- ・ 他科入院患者の対診では、上級医の指導のもとで、自ら問診をとり、診断、治療の選択を主体的におこなうことで、外来診察の経験をする。
- ・ 勉強会(教育)：症例検討は日々、問題症例に対しては行う。月2回の皮膚科スタッフ全員によるカンファレンス、2月1回は周辺5施設中心の症例検討会に出席することで、自身が体験できなかった症例の勉強をする。

2) 週間スケジュール

月曜から土曜まで、以下のスケジュール

午前：外来見学

午後：対診、皮膚科入院患者の診察・処置・問題症例の検討

上級医師が、手術などの予約を入れている場合はそれを介助、見学する。

5. 評価 EV

短期のため、先に述べた目標が達成できたか、実践的知識が得られたか部長が面談により評価する。